

顔が見えるNST活動

「NST」とは、「ニュートリション（栄養）サポートチーム」の頭文字をとったものです。チーム医療の一環として栄養管理することで、治療効率を高めます。

日本海総合病院では、平成十六年から活動を開始し、学会認定の「NST稼働施設」となっています。当院が活動を始めた平成十六年頃は、全国で認定を受けていたのは189程度の施設数でしたが、平成二十二年には、1600以上の施設が認定を受けるまでになりました。NST活動は全国各地の病院に広がっています。

活動紹介

さて、実際「NST」というチームは、どういう活動をしているのでしょうか？なぜ「栄養」が治療に必要なのか？一見繋がりが無いような感じですが、いくつかの例で説明します。

まず始めに、当院のNSTで最も多く関わる「床ずれ」を例にとります。治療には塗り薬も必要ですが、患者さんに傷を治す効果が

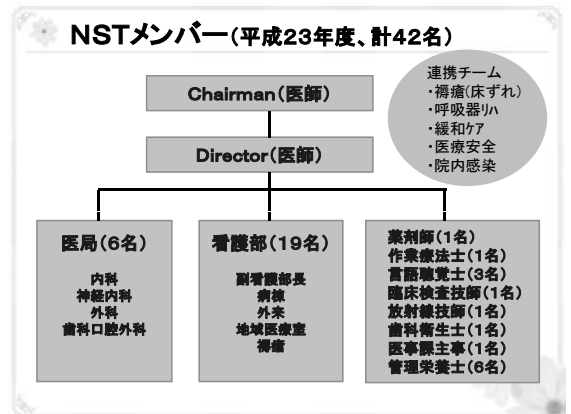
期待できる栄養を摂っていただくことで、早く治すことができます。また、その人に合った栄養を日ごろから摂ることで、「床ずれ」を予防することもできます。

次の例は、何らかの障害で食べるのが難しくなり、口から栄養が摂れなくなった場合です。このように食べられなくなった時には点滴をすることが多くみられますが、腸を使った栄養補給の方が良い場合があります。腸には免疫力を高める働きがありますが、食べていない期間が長くなると腸に栄養が入っていかず、免疫力が落ちて病気が長引くこともあります。私たちNSTは、なるべく腸を使って栄養補給する方法を考え、治療効果を高める手助けをしています。

NSTの紹介

このように患者さんに合った栄養を考えるのが、主治医の他に、栄養の専門知識を持ったメンバーで構成されているNSTです。当院のメンバーは、図1の構成になっています。

図1



地域連携

当院のNSTが関わった患者さんが治療を終えられて他の病院や施設へ転院する場合があります。また、自宅に戻られた場合でも、何らかの医療サービスが必要となることもあります。退院した後どこにいても、同じような栄養を摂ることで、健やかに過ごしていただけるよう、当院NSTでは地域連携にも力を入れています。

患者さんの情報を共有することはもちろん、栄養に関わる職員が同じ知識を持つように、定期的に勉強会を開催しています。勉強会には、当院以外の方々からも多数ご参加いただいています。

顔が見えるNST活動

当院のNST活動の特徴は「顔が見えるNST」として活動していることです。

一つ目は、病院の回診は医師、看護師が行うのが通例ですが、NSTでは、医師、看護師の他に管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士などのチームで回診をしています。

これは、患者さんに関わる全てのスタッフが直接に患者さんの状態を把握し、それぞれの専門分野でのサポートを素早く、正確に行うことを目的としています。また、NSTの回診はスタッフが酒田医療センターへ出向いても行っています。二つ目は、患者さんが転院した



回診メンバー

場合には、転院先のスタッフと当院のスタッフが直接に面談して患者さんの状態を確実に伝達するということをしています。

このように、患者さんと連携する病院施設のスタッフとも顔が見える関係を築き、信頼される活動を行うことを心がけています。



主治医と相談中のスタッフ

最後に

これからも、日本海総合病院NSTから「栄養の重要性」を発信し、地域全体で取り組んでいきたいと思えます。

日本海総合病院NST委員会委員長 橋爪 英一 医師への一問一答



Q1 先生が栄養に注目したきっかけは何でしょうか？

A1 私は外科が専門ですが、手術をする時、患者さんの栄養状態が術後の経過に大きく関わることを経験しています。手術前に栄養状態が悪い場合、手術後に合併症を起こす危険が高く、回復にも時間がかかります。したがって、手術においては、呼吸や心臓の管理の他に、栄養管理が重要になります。また、同じ内容の栄養でも、点滴で体に入れた時よりも、口から食べるなどの「腸を使う」方法にすると、みるみる回復してくることもよく見られます。手術など体に大きな負担がかかることに対して、その回復に薬も必要ですが、最も重要なのは患者さんの回復力であり、その源は栄養だと考えています。

Q2 NSTのやりがいはどこにあったところにありますか？

A2 NSTとは多職種の人たちが一人の患者さんの全身体態を改善するために、チーム

医療です。必ずしも結果が期待通りにいくわけではありませんが、チーム医療がうまく作用して患者さんが元気になれる過程に立ち会えるときに、やりがいを感じます。

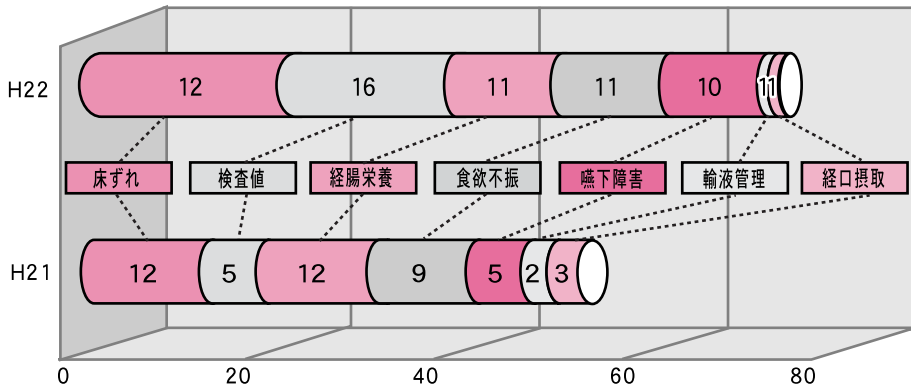
Q3 NSTがこれから目指すものは何でしょうか？

A3 栄養状態の改善には時間がかかるものです。しかしながら、当院のような急性期病院では、長期に入院することは難しく、



回診の様子

NSTの依頼理由



栄養管理が途中の状態でも退院されることも少なくありません。よって、自宅や施設に移られても一貫して栄養管理が続けられるようにしたいと考えています。そのために、地域が一体化し、お互いの連携を深め、病院・施設・自宅、どこにおいても同じ栄養管理が行われる環境作りを目指しています。